



会社概要 2024

日本板硝子株式会社
証券コード：5202（東証プライム）

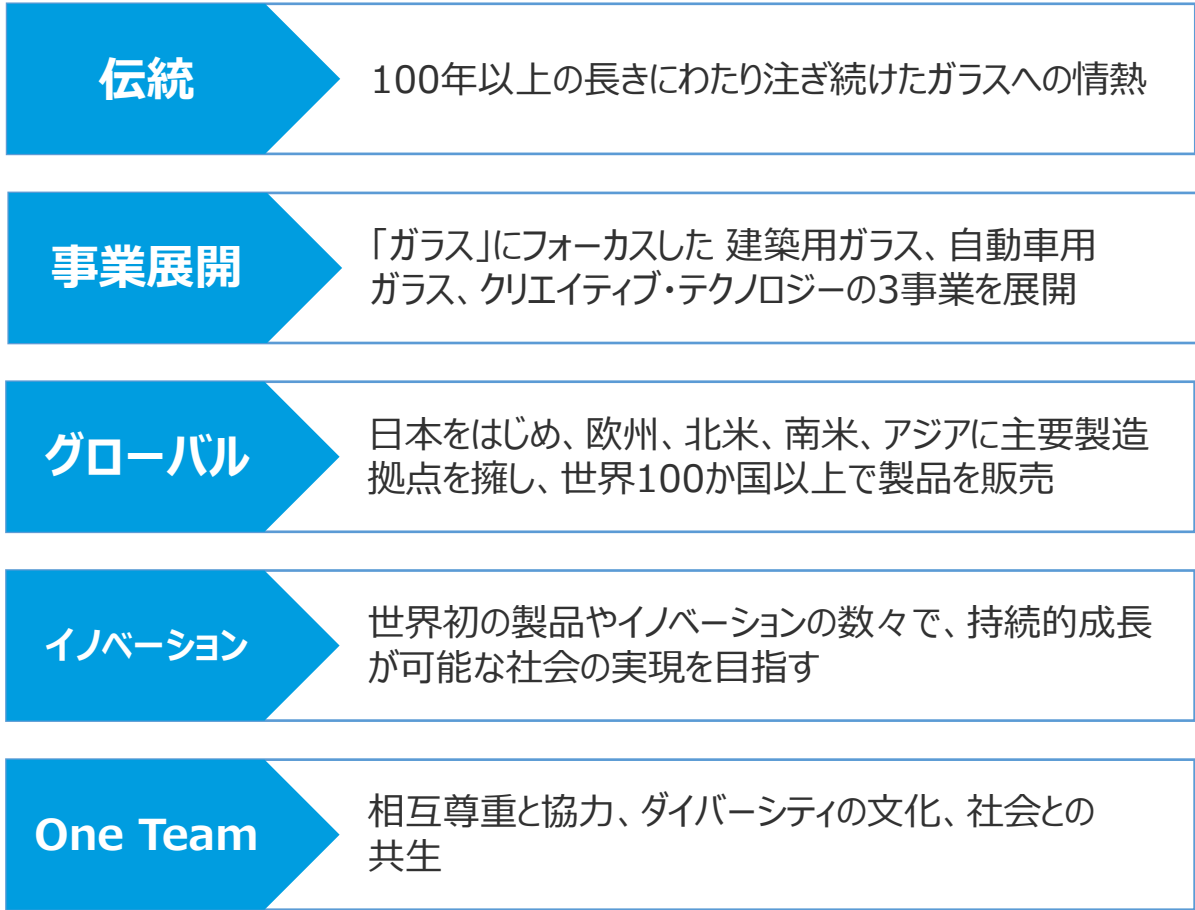
Contents

会社概要

NSG グループとは？	3
事業展開	4
主要製造・研究拠点	5
主な沿革	6
中期経営計画 2030 Vision : Shift the Phase	7
脱炭素化への取り組み	8
サプライチェーンの取り組み	9
サイバーシティに関する取り組み	10
経営体制 取締役	11
執行役	12
社会貢献	13
国内拠点	14
Appendix	15

NSG Group とは？

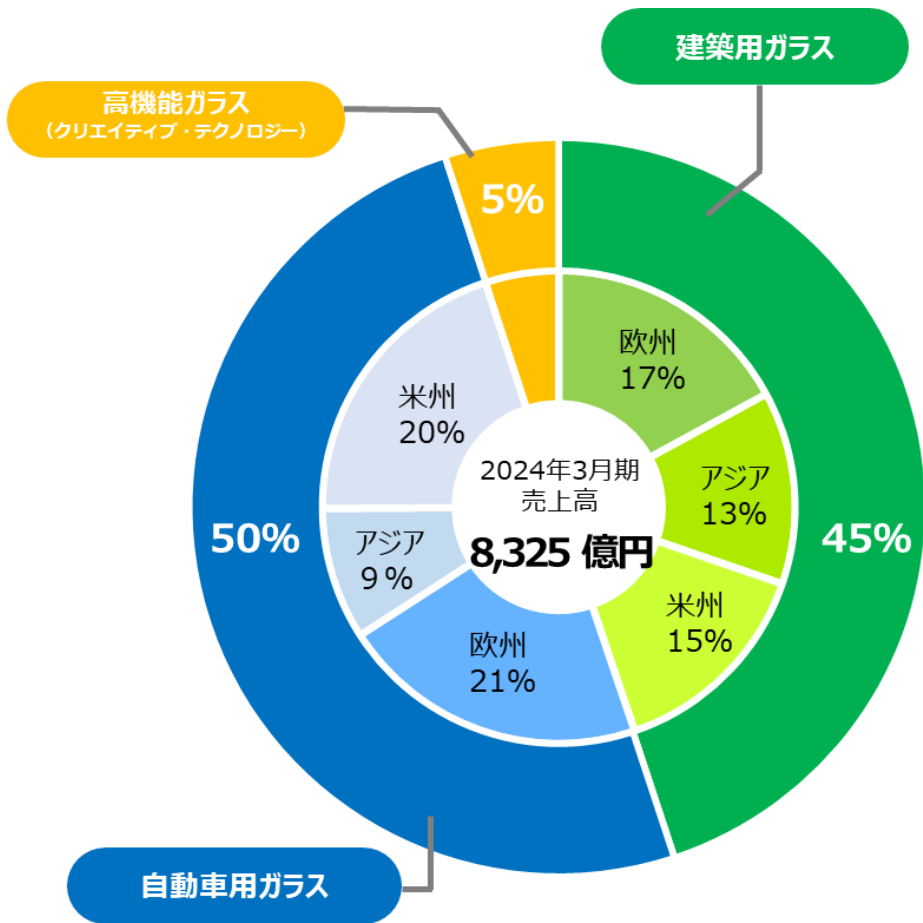
長きにわたりガラスに情熱を持ち、共に高め合う仲間たちと、イノベーションを絶えず生み出してきた、「世界最大級のガラスメーカー」です



Our Vision



事業展開



建築用ガラス事業

建築用ガラスと薄膜太陽電池パネル用ガラスのリーディングサプライヤー

製品群	建築用ガラス 太陽電池パネル用ガラス 産業用高付加価値ガラス
-----	--------------------------------------

事業概要

人々の生活スタイルや社会の変化により多様化するガラス製品のニーズに対応した高付加価値製品を数多く生み出しています。

また、2050年のカーボンニュートラル達成に向け、より低炭素でのガラス製造への努力を進めるとともに、当社が強みを持つ独自のオンラインコーティング技術を活用し、再生可能エネルギー向けや生物保護を目指した製品開発も推進しています。



Courtesy of First Solar Inc.



自動車用ガラス事業

世界最大級の自動車用ガラスメーカーとして新車用 (OE) と補修用 (AGR) を供給

製品群	新車用 (OE) ガラス 補修用 (AGR) ガラス
-----	-------------------------------

事業概要

従来の自動車ガラスの領域にとどまらず、「CASE」に対応した独創的な技術と柔軟なソリューションで、より安全、快適で環境に優しいガラス製品を提供しています。

当社はADASやHUDで求められる高精度なフロントガラスの製造に適した工法 (APBL) の開発に世界に先駆けて成功し、グローバルに生産体制を構築しています。EV化を見据え、省エネ効果のあるIR (赤外線) カットガラスや調光ガラスなど、ニーズの拡大に沿った製品開発も進めています。



クリエイティブ・テクノロジー事業 (高機能ガラス事業)

ニッチ市場で No.1 / Only 1 のガラス部材を提供

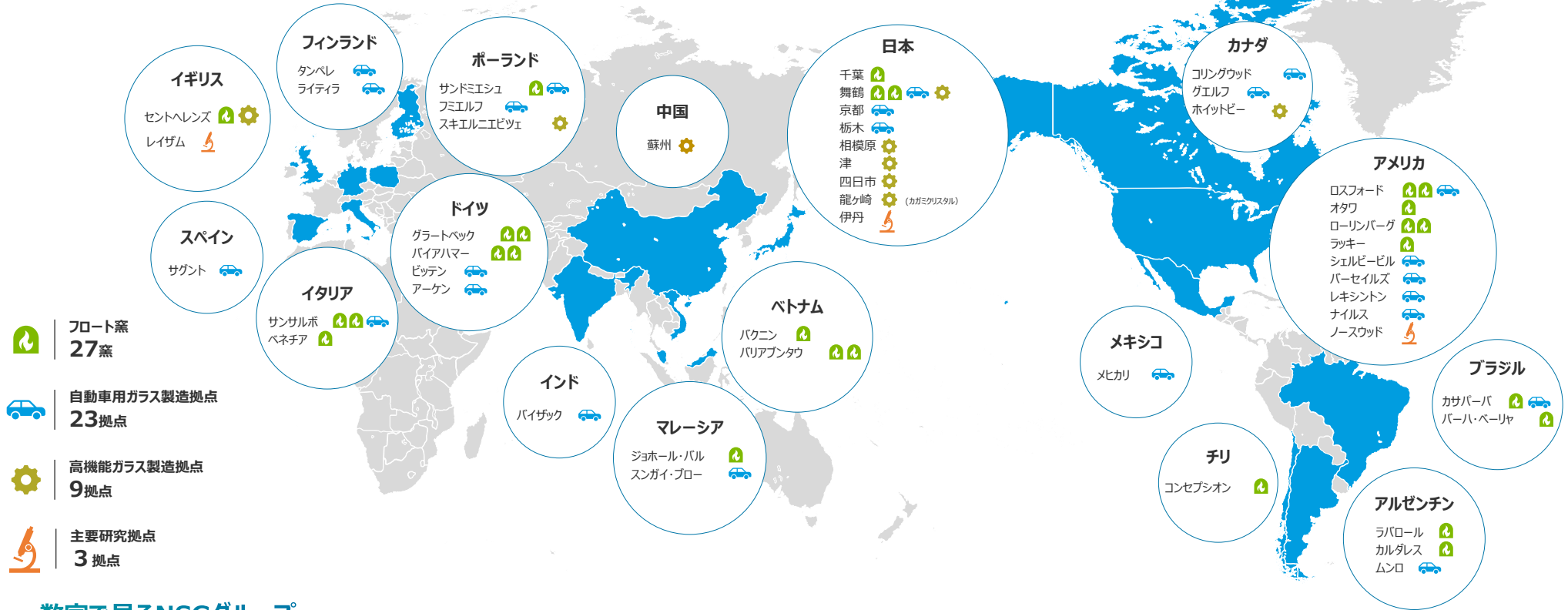
製品群	薄板ガラス オプトエレクトロニクス製品 特殊ガラス繊維製品
-----	-------------------------------------

事業概要

ICT、モビリティ、高機能材料、デザイン・アートの領域トップシェアを誇る多くのニッチトップ商品群を有しています。顧客との共創により、製品の進化に貢献する独自の素材開発を通じた用途の開拓をさらに進めます。



主要製造・研究拠点



数字で見るNSGグループ

(2024年6月末時点)

<p>売上高</p> <p>8,325億円</p> <p>(2024年3月期)</p>	<p>営業利益</p> <p>359億円</p> <p>(2024年3月期)</p>	<p>総資産</p> <p>10,076億円</p> <p>(2024年3月期)</p>	<p>従業員数</p> <p>約25,300人</p> <p>(2024年3月末)</p>	<p>フロート窯数</p> <p>27 窯</p> <p>(2024年3月末)</p>	<p>設立年</p> <p>1918年</p>	<p>販売国数</p> <p>100か国以上</p>
<p>女性管理職比率</p> <p>14.4% → 16.0%</p> <p>(2022年12月末実績) (2024年3月末実績)</p>	<p>ガラス等無機材料研究への助成</p> <p>1,485件</p> <p>(総額約18億円以上：2024年5月末累計)</p>	<p>オンラインガラスコーティングシェア</p> <p>1位</p> <p>(9窯)</p>	<p>マルチファンクションプリンター用レンズ</p> <p>1位</p>			

主な沿革

1826-1940s
設立・事業拡大



1826年、英国でPilkington社の前身となる
St. Helens Crown Glass Companyを設立

1918年 日米板硝子株式会社として大阪に設立

1931年 社名を日本板硝子株式会社に変更

1936年 四日市事業所開設

1950年 東京等の証券取引所に株式上場

1951年/1964年 舞鶴事業所開設/千葉事業所開設

1965年 舞鶴事業所にて東洋初となるフロート板ガラスの生産を開始

1971年 マレーシアに海外初進出

1978-79年 超薄板ガラス・ガラス繊維事業開始

1995年 中国、ベトナムなどアジアを中心に海外展開継続

2004年 本店所在地を大阪から東京に移転

2006年 Pilkinton社を買収。板ガラス分野で世界最大手の一角へ

2008年 委員会設置会社（現・指名委員会等設置会社）へ移行

2018年 新経営指針Our Vision発表

2020年 太陽電池パネル用ガラス製造のため北米に工場開設、ベトナム拠点増強

2024年 中期経営計画「2030 Vision: Shift the Phase」を発表

1950s -1960s
生産能力増強と
自動車用ガラス参入

1970s-1990s
海外進出と
事業の多角化

2000s
ピルキントン買収と
グローバル化

2010s-
高付加価値化と
財政基盤回復へ

「NSGグループ発」
世界初のガラス技術

1942年 初めてコーティングガラス技術の特許取得

1946年 複層ガラスの生産工場が初めて稼働

1952年 フロートガラス製造法の開発

1970年代 ロールスロイス社向けに電線ヒーター付
フロントガラスの開発

1980年代 世界初熱分解反応によるオンラインLow-E
コーティングの開発

GM社の電気自動車向けコーティング熱反射
フロントガラスの開発

PU RIM成型を用いたガラス製品の製造

1997年 世界初真空ガラス “スパーシア™”開発

1998年 オハイオ州ロスフォードに世界初の酸素燃焼
フロートライン設置

2001年 世界初セルフクリーニング（防汚）ガラス開発

2003年 世界初オンラインコーティングされた高性能
熱線反射透明ガラスの開発

2005年 反射防止機能付きガラスの開発

中期経営計画 2030 Vision: Shift the Phase

当社が強みを持つ「ガラスとその周辺技術」に焦点を当て、社会の持続可能な発展に貢献する高付加価値領域での収益拡大を目指します

GOAL

企業としてのフェーズを変え、持続可能な社会の発展に不可欠な存在を目指す

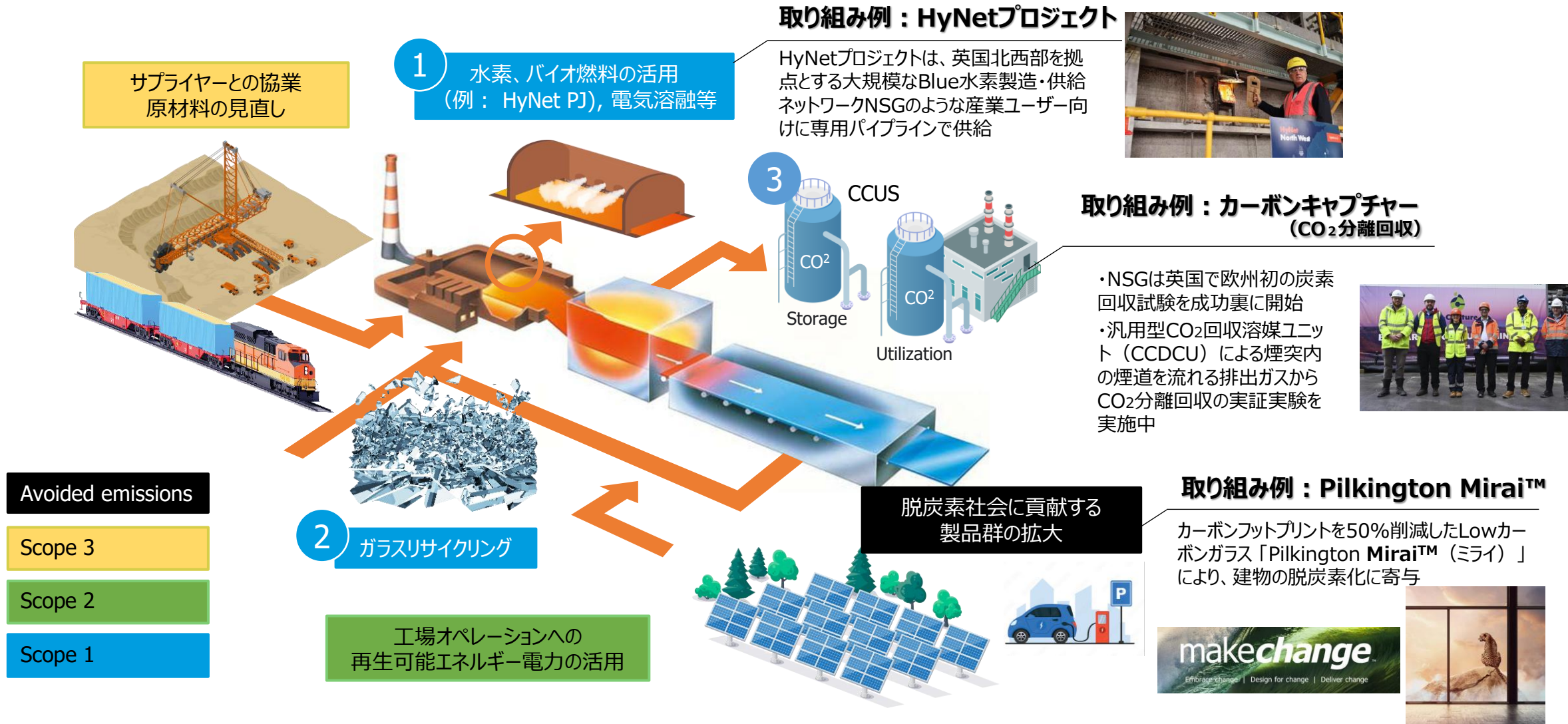
コミットメント

- 私たちは、すべてのステークホルダーのために、そしてステークホルダーとともに、持続可能な社会を実現する価値を創造する
- 私たちは、顧客のソリューションにおいて重要な役割を果たすガラスとその関連技術・サービスを開発し、提供する
- 私たちは、顧客の潜在的なニーズを深く理解し、有形無形の資産を活用して顧客に適したソリューションを提供する
- 私たちは、グローバルで多様性に富み、ガラスに情熱を持ち、才能あふれるチームを誇りとし、人材への投資を続けていく



脱炭素化への取り組み

NSGグループは、2030年までにCO₂排出量を30%削減、2050年までにカーボンニュートラルの達成を目指しています



サプライチェーンの取り組み

NSGグループは、サプライヤーの皆様と共に持続可能な社会の実現に取り組んでいます

サプライヤー行動規範

当社がサプライヤーに期待する最低限の基準としてサプライヤー行動規範を設定しています。

既存・新規にかかわらずすべてのサプライヤーに対して確認を行い、契約済みの主要なサプライヤーのほとんどからこの規範に対する合意を得ています。



サステナブル・サプライチェーン憲章

2023年9月、サステナビリティ目標の達成を加速するため、「NSGグループサステナブル・サプライチェーン憲章」を制定しました。

この憲章では、環境および社会への影響という観点で最も重要であると当社が特定した8つの分野をサプライヤーの皆様と取り組む目標として定めています。



外部評価

CDPサプライヤーエンゲージメントリーダー

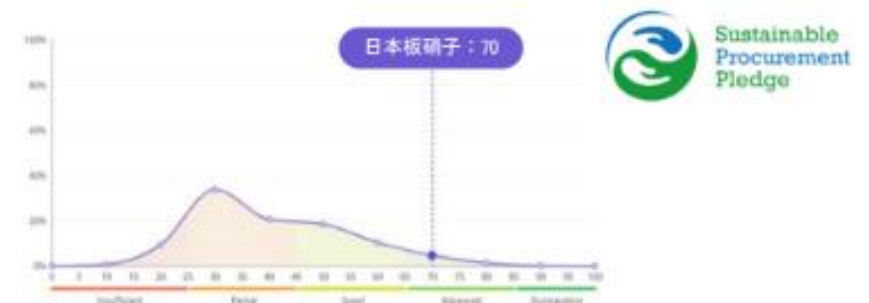
当社は、CDPによる2023年度の最新評価で、サプライヤーエンゲージメントのリーダーとして認められました。これは、日本では105社、世界では500企業(合計13,000以上の評価対象企業のうち)のみに付与されるタイトルです。



Sustainable Procurement Pledge

2023年、プロボノコミュニティである「持続可能な調達への誓い」(Sustainable Procurement Pledge, SPP)の「リーグ・オブ・チャンピオンズ」に参加しました。この個人と企業のネットワークに参加することは、持続可能な調達とサプライチェーンの推進に繋がります。

Sustainable Procurement Score Distribution



ダイバーシティに対する取り組み

NSGグループは、誰もがベストを尽くせるインクルーシブな文化の醸成に取り組んでいます

NSGグループ DEIポリシー

一人一人が生き活きと、ガラスのように輝き続ける組織を作り、発展させていく

Diversity

一人一人の違いを認識し、お互いを尊重し、価値を生み出す

Equity

一人一人に合った機会を提供し、各自が力を発揮する

Inclusion

一人一人が安心して意見を述べ、議論し、決定を導く

NSGグループ 基本ステートメント

インクルーシブな組織文化と環境を築いていきます

私たちは、すべての人が最大限の能力を発揮し、その豊富なアイデアを活かせるように、均等な機会を提供します。

多様な人材を求めています

個人の素性、経験、嗜好および心情の違いを認め、尊重し、その多様な視点を重視します。

私たちはこのステートメントに基づいて活動していきます。



国際女性デー 生理痛体験社内イベント



プラチナくるみんマーク取得



テック業界の多様性を推進する「Skills City プログラム」



イタリアの拠点を国際女性デーを記念し紫にライトアップ

Flat, Frank, Fast, Funの4つのFを組織内でのコミュニケーション文化として浸透させる

経営体制 取締役

(2024年6月27日時点)

独立社外取締役が過半数。取締役会議長、指名、監査及び報酬の3委員会の委員長は、いずれも独立社外取締役

独立社外取締役
取締役会議長
指名委員長

石野 博

取締役



独立社外取締役
報酬委員長

ヨーク・ラウパッハ・スミヤ

取締役



独立社外取締役
監査委員長

皆川 邦仁

取締役



独立社外取締役

浅妻 慎司

取締役



独立社外取締役

桜井 恵理子

取締役



取締役
代表執行役社長 兼
CEO (最高経営責任者)

細沼 宗浩

取締役



経営体制 執行役

(2024年6月27日時点)

取締役
代表執行役社長 兼
CEO (最高経営責任者)
細沼 宗浩

代表執行役

執行役会長
森 重樹

執行役会長

国際性、ジェンダー、年齢等、多様な人材からなる経営陣

建築ガラス
事業部門長
レオポルド・ガルセス・カステイリャ

執行役常務

CAO
(最高管理部門責任者)
兼カンパニーセクレタリー
日吉 孝一

執行役常務

クリエイティブ・テクノロジー
事業部門長
岡本 久

執行役常務

CFO
(最高財務責任者)
大河内 聡人

執行役常務

Auto
事業部門長
ロブ・パーセル

執行役常務

CTO
(最高技術責任者)
マイク・グリーンナル

執行役

CHRO
(最高人事責任者)
デニス・ヘイラー

執行役

CRO
(最高リスク責任者)
兼 副CFO
神林 正樹

執行役

CLO (最高法務責任者)
兼 CE&CO (最高倫理・
コンプライアンス責任者)
ミハエル・キープアー

執行役

サステナビリティ部
統括部長
小林 史朗

執行役

CSO (最高戦略責任者)
コーポレート
戦略企画統括部長
中辻 陽平

執行役

ファイナンス・
ディレクター
イアン・スミス

執行役

社会貢献

NSGグループは、事業を展開する地域社会の責任ある重要な一員として、地域社会の発展に積極的な貢献を果たすことが重要であると考えています

(公財) 日本板硝子材料工学助成会

(公財) 日本板硝子材料工学助成会は、日本板硝子株式会社の創立60周年を記念して、無機材料の学術及び技術の発展を目的に1979年に設立されました。助成会では累計で1,485件の研究に対して総額約18.8億円の助成を行っています(2024年5月現在)。設立以来45年以上にわたり、当社は助成会の活動支援を通じて無機材料の学術と技術の発展を応援しています。



(公財) 日本板硝子材料工学助成会 研究助成金贈呈式

住友グループを通じた社会貢献

当社は住友グループの一員として、住友財団を通じた基礎科学、環境、芸術・文化、国際交流の各分野の事業への助成の他、住友グループ広報委員会において、「一筆啓上賞 日本一短い手紙コンクール」や「全国盲学校弁論大会」など、「大切なこと 人から人へ」の精神に通じる、各イベントへの後援を行っています。



地域社会サポート活動 (ブラジル)

当社グループ会社のブラジルの拠点では、ブラジル・サンパウロのホームレスの人々のために、温かいお風呂、清潔な服などの日用品を提供するソーシャルプロジェクト「Banho Solidário Sampa」をサポートする活動を行っています。

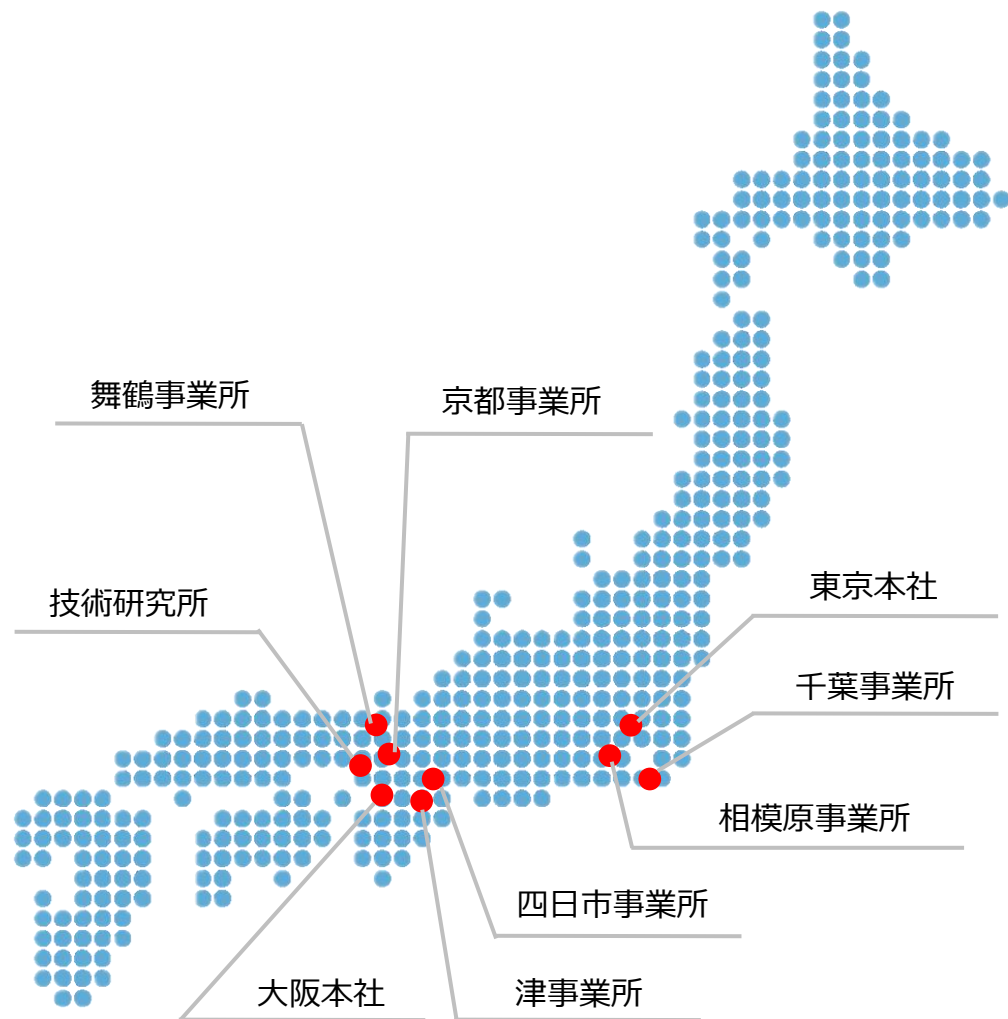


Bee Projectを通じたチャリティ活動 (イギリス)

当社グループ会社のレイザム事業所では、社員のボランティアによる養蜂を行っています。蜂蜜は地域で販売され、その収益はAlder Hay Children's Charity (アルダー・ヘイ児童慈善団体)に毎年寄付されています。本活動は蜜蜂が好む自然豊かなレイザム事業所周辺の環境と生物多様性の保護にも役立っています。



国内拠点



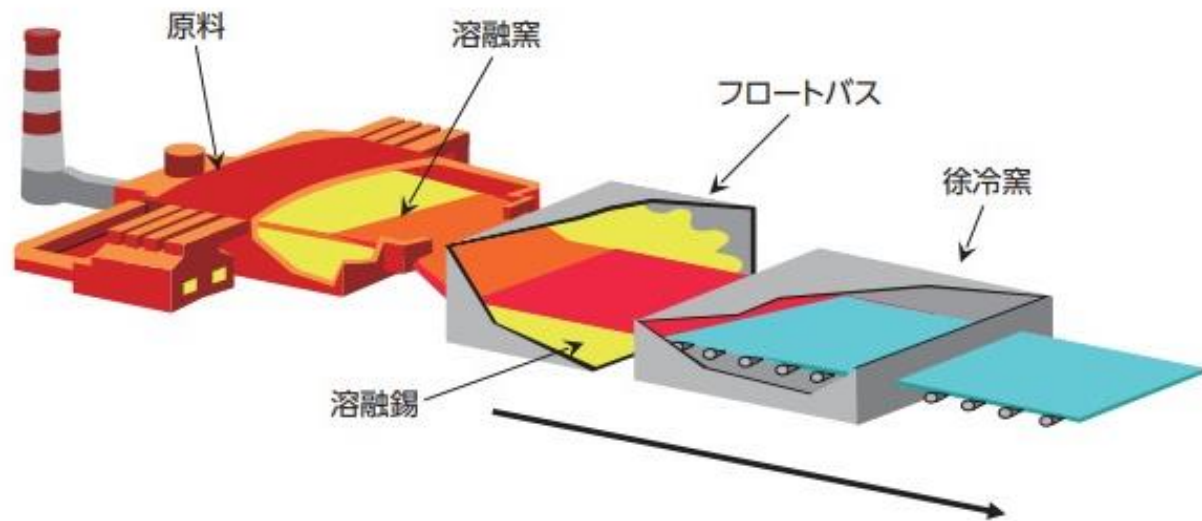
東京本社	〒108-6321 東京都港区三田3丁目5番27号住友不動産東京三田サウスタワー TEL 03-5443-9522
大阪本社	〒541-8559 大阪府大阪市中央区北浜4丁目5番33号 住友ビル4階 TEL 06-6222-7512
技術研究所	〒664-8520 兵庫県伊丹市鴻池2丁目13番12号 TEL 072-781-0081
千葉事業所	〒299-0107 千葉県市原市姉崎海岸6番地 TEL 0436-61-2111
相模原事業所	〒252-5189 神奈川県相模原市緑区西橋本5丁目8番1号 TEL 042-775-1501
四日市事業所	〒510-0051 三重県四日市市千歳町2番地 TEL 059-352-3111
津事業所	〒514-0817 三重県津市高茶屋小森町4902番地 TEL 059-238-1111
京都事業所	〒601-8206 京都府京都市南区久世大薮町469番地 TEL 075-934-8218
舞鶴事業所	〒625-8666 京都府舞鶴市大波下小字浜田255番地 TEL 0773-62-2351

フロート板ガラスとは

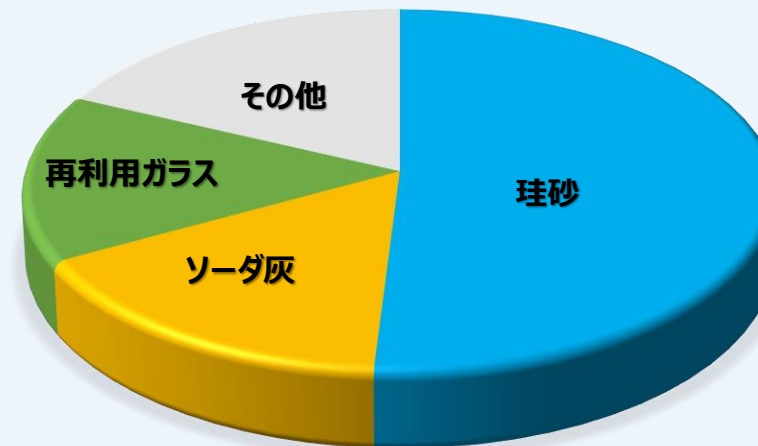
フロート法は、1950年代に現在のNSGグループの一員である英国 Pilkington社が発明した画期的なガラス製造法です。

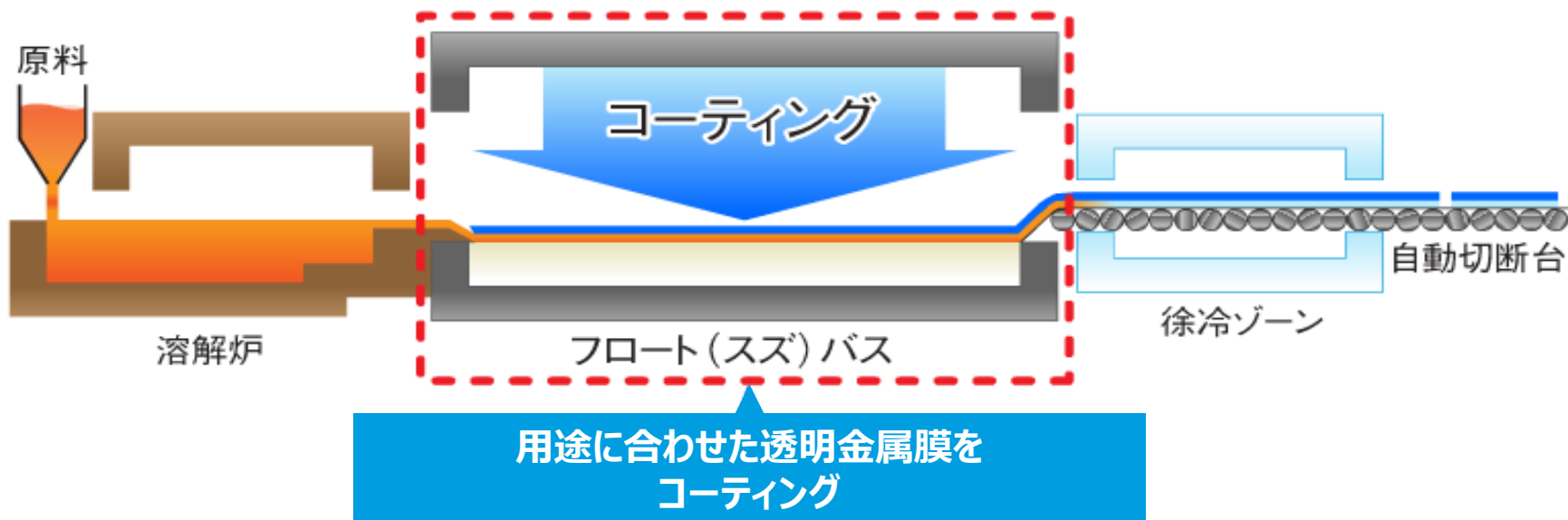
その工法は、約1600℃まで加熱し、溶けたガラスを溶融錫（スズ）の敷かれた炉（フロートバス）に流し込み、錫の上に浮かべることで、両面が完全に平らで均等な厚みの板ガラスを製造するものです。

速度を調節し、徐々に冷却しながら成形した板ガラスを連続的に引き出すことにより、所定の厚みの平滑なフロート板ガラスが製造されます。



ガラスの原料





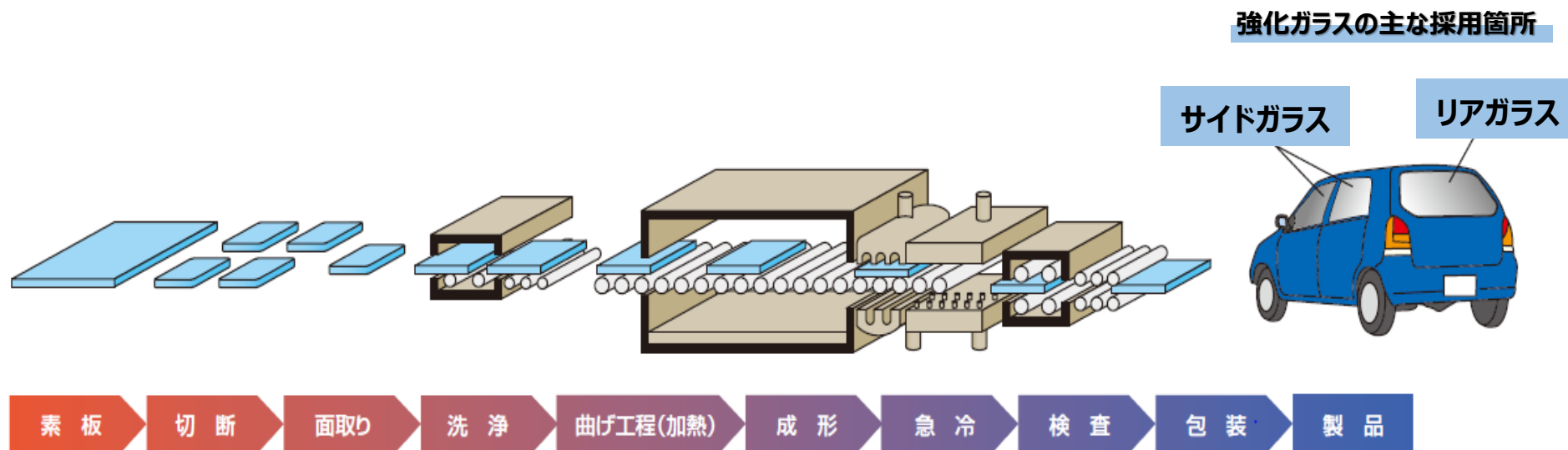
オンラインコーティングの特徴

- フロートバス内でガラスの成形と同時に薄く均一な金属膜を生成
- 低コスト、大寸法にて対応が可能
強固な膜 - 後加工が容易、外装面にも利用可能
- 多用途 - 建築用・太陽電池パネル用以外に 自動車用Low-Eガラス、薄型/湾曲ディスプレイ、OLED照明、薄膜センサーなどへの展開および拡大を期待



強化ガラスとは

衝撃に対する強度が通常のガラスの3倍～5倍に強化されたガラスです。
板ガラスを強化炉に入れ、軟化温度に近い650℃～700℃に加熱後、空気をガラス両面にムラなく吹き付けて急冷します。
この過程で表面に安定した圧縮応力層が形成され、強化されます。



合わせガラスとは

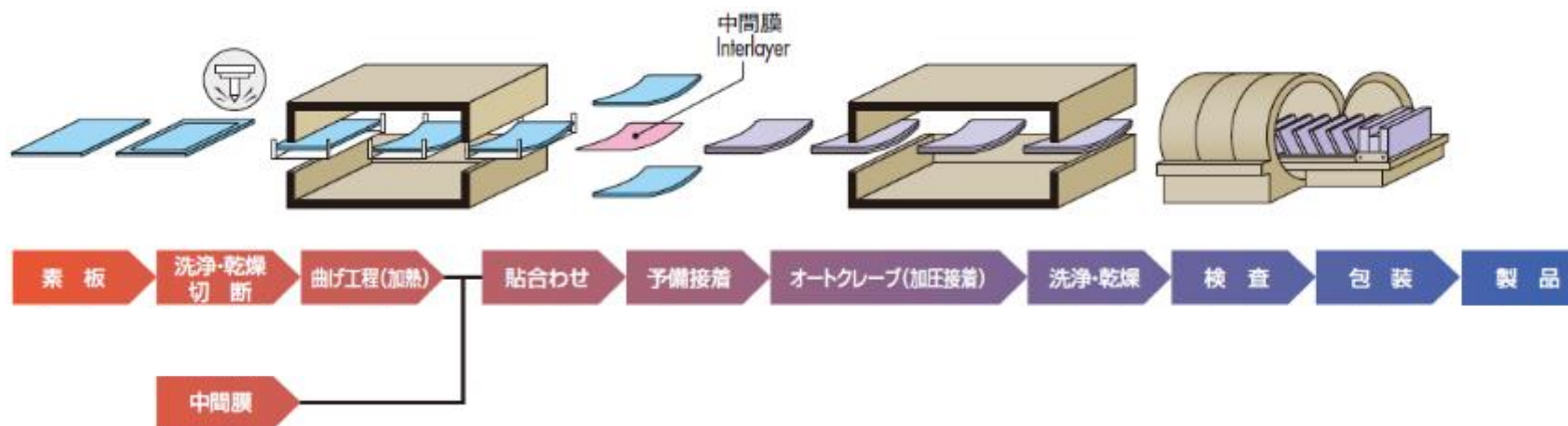
2枚のガラス間に透明の中間膜を挟んだガラスで、空気圧のオートクレーブ（圧力窯）に入れ、圧着させます。

これにより、衝撃によるガラス飛散を防止し自動車の安全性を高めます。

ガラスを3枚以上使用する、特殊品もあります。

合わせガラスの主な採用箇所

フロントガラス



NSG
GROUP

＼ Nグマくん ／



公式X（旧Twitter）アカウント